

一人ひとりにあった、生きる力をつけるための
キャリア教育はどうあるべきか
～小・中における授業実践を通して～

I 研究の内容

1 研究の方法

- (1) 部会のテーマに沿った授業実践をし、研究協議を行う。
- (2) 小・中学校の連携を図る。
- (3) 各校の実践とキャリア教育に関わる資料を持ち寄り、研究討議や情報交換を行う。
- (4) 講師を招聘し、学習会を開催する。

2 研究の具体的内容

- (1) 9月2日 授業実践 塩山北小6学年 青柳俊雄教諭
ア 主題名 「みそ販売プロジェクト」
イ ねらい みそ販売することを通して、そのために必要なことを考え、みんなと協力しながら自己実現をはかることができる。また、授業を通して、人間関係形成・情報活用・将来設計・意思決定の各能力を身につけさせていく。
- (2) 9月30日 勝沼小 加藤幸夫教頭先生による学習会
学習内容 進路指導の現状と課題、中学校進路指導の改善、キャリア教育の計画、キャリア教育推進の方策
- (3) 2月3日 授業実践 山梨北中1学年 辻純二教諭
ア 主題名 「今の自分、これからの自分」
イ ねらい 今までの自分の学習や、日常的な活動への取り組み方を見つめなおすことを通して、将来設計・意思決定の各能力をつけていく。

II 成果と課題

(1) 成果

- ・以前は中学校だけの研究をしていた部会であったものが、今年は小・中学校の先生方が連携して研究できたことが一番の成果であった。
- ・狭い範囲での進路教育が、広い視野から見たキャリア教育を考える良い機会となった。
 - ・各発達段階に応じた、身につけるべき力が見えてきた。また、避けては通れない

入試の問題も知ることができ、更なる課題が発見できた。

- ・身につけるべき4つの能力を学び、学校現場のあらゆる場面や教科でできる、キャリア教育を考えながら指導できた。
- ・授業実践から、小中学校異なる側面のキャリア教育を見ることができたのは大変大変勉強になった。
- ・新たな部会のスタートが、小中学校連帯の研究で、子どもたちの生き方を追求していったことは、とても意義があることであった。

(2) 課題

- ・研究の継続をどう図っていくか、この1年での成果を、来年度につなげる体制作り。
- ・入試制度に対して、この部会での成果をどう生かし、関係機関に要求していくか。
- ・今後どのように進路保障につなげていくか、また、学力保障もしていかなければならないことも忘れてはならない。
- ・総合的な学習の時間数減少により、今まで行ってきた職業体験、自然体験等が現実的には難しいのではないか。
- ・県のガイドライに沿った、系統的な研究をどのように進めていくか。

(部長 土屋 憲一)